



左から中野嘉秋さん、鈴木健治さん、中川康作さん、金澤吉彦さん、藤居達雄さん

新しいステージをいきいきと

地域のために、自分のために感動のある毎日を

一休会の活動

- ①地域とかかわりのある活動
 - ・まち役寄席(落語会)の開催
 - ・図書館の葉刈り
 - ・「おかげ朝市」への出店、ボランティア
 - ・「まちづくり役場」の応援ボランティア
 - ②自主活動
 - ・門松づくり
 - ・料理教室
 - ・そば打ち体験
 - ・苔玉教室
 - ・ひょうたんづくり など
 - ③交流会
 - ・2か月に1度会食を通して親睦をはかる
 - ・年2回のバス旅行
 - ④その他
 - ・定例会(活動の企画と反省)
 - ・グラウンド・ゴルフ
- 〈問合せ先〉
NPO法人 まちづくり役場
☎65-3339

最初は具体的に何をするか決まっていなかったのですが、1年くらいは模索していました。他市の活動の様子を聞いたり、交流をしたり。
今では、地域とかかわりのある活動として落語会や図書館の葉刈り、まちづくり役場のお手伝い、自主活動として門松づくりや料理教室を行っているほか、定

一休会を結成されてからの日々を聞かせてください

それはもう、同じ時代を生きてきた人たちですから、意気投合するのに時間はかかりませんでした。仕事をしていた時とは違う人間関係を地域で築くことができ良かったです。
— 講座に参加していかがでしたか —
なく、誰とも交流せず脳がだんだん衰えて、寿命も短くなる。そんなことが一般的に言われていたので、「何かしなければ」と思っていました。そんな時に講座のお知らせが届いたんです。



昨夏に開催した「ごぼさん夏中寄席」。会場の大通寺大広間はお客さんでいっぱい。

幅広く活動されていますね

定期的に交流会や例会を開いています。すべての活動に全員が参加するわけではありませんが、それぞれのペースで楽しんでいます。自主活動では、メンバーが特技を生かし、様々な講座を開いてく

地域で輝く☆男の仲間づくり講座

こうした状況を踏まえ、本市では平成19年度に55〜62歳の男性を対象とした「仲間づくり講座」を開催しました。定年後、それまでの仕事中心の生活から、地域での生活にうまく移行するために、誰と何を、どうすればいいのか…。地域で活動を始めるための一助となるよう、経験

「男の仲間づくり講座」に、なぜ参加しようと思ったのですか

男性は定年後、女性に比べて引きこもり状態になりやすいと言われていました。女性は料理や掃除、洗濯など生活に欠かせない技術を持っているし、話題が豊富で人間関係を築くのが得意です。だから寿命も長いのではないのでしょうか。一方男性は退職したら何もすることが

輝かしい「11万時間」

学校卒業から定年まで「働く時間」はおおよそ11万時間とされています。そして、定年退職後「自由に使える時間」もまた、11万時間。定年までに過ごした時間とほぼ同じ時間が、この先に待っています。

進む長寿高齢化社会の中で

日本の高度経済成長をけん引してきた「団塊の世代」と呼ばれる人たちが、2025年には75歳を迎えます。今後、介護・福祉分野をはじめ、様々な問題を抱えながら突入する長寿高齢化社会。定年後の人たちがどのように日々を過ごすかが大きな鍵となります。

「一休会」の名前の由来は

「男の仲間づくり講座」が終わる頃、「このまま解散してしまうのはもったいない」と発案しました。当時のメンバーが19人で、平成19年にできたから「いっきゅう」という意味合いもあります。
今回はその修了生が立ち上げた「一休会」のメンバーと、個人で農業団体を立ち上げた福永善吾さんに話を伺いました。たのは、19人。

長浜市の人口は約12万3千人。そのうち、60歳以上の人口は3万9千人と、全体のおよそ32%を占めています。時間がある、何をしようか、何かしたい…そう思っている人も少なくないことでしょう。
既に定年を迎えている人はもちろん、数年後に控えている人も、「これから」の過ごし方について一緒に考えてみませんか。